



Title	熊本地震の派遣支援活動報告「高槻市の支援活動」
Author(s)	近藤, 康子
Citation	大阪公衆衛生. 2017, 88, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78651
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

熊本地震の派遣支援活動報告「高槻市の支援活動」

近藤 康子

高槻市健康福祉部保健所 健康づくり推進課

1. はじめに

高槻市は大阪府の北東部に位置し、面積105.29平方キロメートル、人口約35万人を有する中核市です。現在、保健師は72名在籍しており、所属は4部12課にまたがり、分散配置がすすんでいます。

2. 高槻市の支援活動

高槻市は、大阪府のチームの一員として、4月20日から6月末までの派遣期間中に保健師4名、管理栄養士2名を派遣し支援活動を行いました。私は、6月7日（火）～11日（土）のフェーズ3の時期に現地に行きました。自身の震災派遣体験を振り返り、感じた課題と今後について考える機会となりましたので、報告させていただきます。

3. 派遣活動の中で感じた課題

派遣活動の中で実施したことは大きく分けて、2つあります。1つ目が避難所の健康管理です。高齢者や妊婦等の要支援者へのフォローと健康相談ブースでの健康相談を実施しました。前期間に派遣されたチームから要支援者の引継ぎを聞いていましたが、要支援者は昼間は外出されていて会えなかったり、既に退所されていました。一方で、町職員や避難所内の他の居住者から新規のフォローケースの情報が入ってくる状況で、避難所に居住している人の健康状況やフォローの必要性の把握方法等の体制構築が課題であると感じました。また、この頃にはアルコールの多量飲酒者、配食の栄養バランスの偏りによる糖尿病のコントロール不良や介護サービス等につながっていない高齢者の不活化、ストレスによる高血圧や便秘、不眠等の身体症状の出現等、慢性的な疾患や介護サービスに取り残された人のフォローが必要となってきた時期でした。このため、JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）やMSWと連携し、関わっていきました。時期によりフォローの内容も変わり、この時期には、普段から何らかの問題を抱えているが、社会的なつながりが薄い人が取り残されてくる時期であることがわかりました。

避難所での活動及び課題として感じたこと

① 避難所の健康管理

- ・要フォロー者の巡回声掛け、健康状況の確認
- ・新規フォロー者の聞き取り、状況確認、関係団体との調整等（町職員からの情報や居住が近い方からの通報など）
- ・健康相談ブースでの健康相談（1日数件）
- ・感染症防止対策、血圧計設置場所での測定方法掲示等

【課題】

- ・新規フォロー者のスムーズな把握方法の検討
- ・生活習慣病治療中者の受診中断や配食による栄養の偏り
- ・居住実績の把握（要フォロー者が退去後どこに住んでいるのか等）

避難所の様子



アリーナの様子

健康相談室の様子



2つ目が在宅者の訪問現地調査です。在宅者の健康状況、家族の状況、家屋の状況等を聞き取り、フォローが必要な人を町の保健師につないでいくことを目的として実施した調査です。訪問活動を実施する中で、在宅者でも支援が必要な人がいるにも関わらず、在宅者は避難所にいる支援者より把握が遅れていると感じ、在宅で支援が必要な人のスムーズな把握のためにも、地域の特性を知り、フォローが必要な人には早期に状況を把握できる体制づくりが必要であると感じました。また、他部署の訪問調査と時期が重なってしまい、同じことを何度も聞かれることで被災者の負担が増加しており、関係機関と連携した活動が必要だと感じました。

4. 今後に向けて

このような経験から、市の保健師として災害時の体制整備が必要であると感じました。具体的な内容としては、①アクションカードの作成や日々の話し合いにおいて、発災時の初動体制を確認しておく、②市防災計画や災害時マニュアルを確認し、自分の役割及び組織の役割を明確にしておく、③地区の特徴（高齢化率・乳幼児の数・健康状況・経済状況・地区コミュニティの状況・避難所や救護所の場所等）の把握や普段の保健活動の中で感じる課題の分析、市全体の保健事業の概要を知っておく等、日々情報収集と地区診断をしておく、④日々の活動の中で、要支援者については発災時の動き方、連絡方法等を確認しておくこと、地域住民に災害の備えに関する啓発活動をしていく、⑤庁内外で、災害時に連携が必要となる部署を把握しておき、医療機関の開業状況等速やかに把握できるような体制を作っておく、⑥この

ような派遣経験を市の保健師で共有し、市の課題や体制づくりの必要性について共有しておくことが必要であると考えています。

5. まとめ

私は現在、成人保健担当として、特定健診・保健指導の業務を担当しています。今回、震災派遣の経験を通じて、保健師は健康づくりを担う専門職として広く住民の健康を考え、健康問題が起きないように予防をしていくこと、日頃から地域に根ざした保健活動がいざという時の要支援者のスムーズな把握や対応につながるという保健師の原点の活動をしっかりとしておくことが災害時にも役立つということがわかりました。よく、「平時にできていないことは、災害時にできない」と言われますが、まさにそのとおりであると感じ、まずは平時にしっかりと地域に根ざした活動をしていきたいと考えます。



脂肪を代謝する力を高め、 体脂肪を減らすのを助ける



脂肪を
代謝する力を高め、
体脂肪を減らすのを助ける

ヘルシア 緑茶a

350 ml

食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。



特定保健用食品

茶カテキン
540
mg

ヘルシア 緑茶

許可表示：本品は、脂肪の分解と消費に働く酵素の活性を高める茶カテキンを豊富に含んでおり、脂肪を代謝する力を高め、エネルギーとして脂肪を消費し、体脂肪を減らすのを助けるので、体脂肪が気になる方に適しています。

- 健康づくりには適度な運動と食事のバランスを。
- ダイエット食品ではありません。
- のんだあとはリサイクル。

年に1回は人間ドックを受けましょう。

日本人間ドック健診協会
推薦®

花王株式会社 消費者相談室 ☎0120-165-697 <http://www.kao.co.jp/healthya/> 